

野木町 教委だより

第2号
令和元年9月



令和2年度からプログラミング教育が導入されます

教育長 菊地良夫

令和2年度から小学校では新学習指導要領に基づいた教育課程が編成され、完全実施となります。今回の改訂で「特別の教科 道徳」や小学5、6年生からの「英語科」など新しい教科が盛り込まれました。更に新たに「プログラミング教育」が小学生段階から導入されることになりました。この教育は、主に社会、算数などの教科等の学習を指導する中で実施されます。

今まで小学生はコンピュータから情報を収集したり、ソフトを活用し文書を作成したり、あるいは問題を解いたりなど活用してきました。

今後は、ますます増える新しい情報機器やサービスとそれらによってもたらされる情報を、適切に選択・活用して問題を解決していくことが不可欠な社会が到来しつつあります。

コンピュータを理解し上手に活用していく力を身に付けることは、あらゆる活動においてコンピュータ等を活用することが求められるこれからの社会を生きていく子どもたちにとって、極めて重要なこととなってきます。

そこで、「今までのコンピュータの情報収集等の活用」ばかりでなく「コンピュータの仕組みを知り、作動させる」学習を取り入れることにより、より主体的に活用していく力が身につくよう「プログラミング教育」が導入されました。

コンピュータはご存知のように「魔法の箱」ではなく、人が命令を与えることによって作動させるものです。その命令を組み立てることが「プログラミング」といいます。自分の考えた活動をプログラミングで実現するためには、活動を一つ一つの動きに分け、それを対応する命令に置き換え、どのように組み合わせるかといったことを論理的に考えなければなりません。このような考える力を「プログラミング的思考」といい、この教育の最も重視している力です。

プログラミング教育は3つのねらいがあります。

- ① プログラミング的思考を育むこと
- ② プログラムの働きやよさ、情報社会がコンピュータ等の情報技術によって支えられていることなどに気付くことができるようにするとともに、コンピュータ等を上手に活用して身近な問題を解決したり、よりよい社会を築いたりしようとする態度を育むこと
- ③ 各教科等の内容を指導する中で実施する場合には、各教科等での学びをより確実なものにすること

それでは、プログラミング教育の第一歩の具体的な取り組み例を示します。

小学1年生生活科単元名「じぶんでできることをしよう」
Aさんは、「せんとくの手伝い」の中で
「じぶんでできること」を考えて、実行する時の作業の
手順と内容を右の図にまとめました。(プログラミングです)
これで、自分のできることが明確になります。



